

相談内容

発達に関する相談

言語、運動、手遊び、
身体の成長など

行動／性格に関する相談

こだわり(固執)、不安、緊張、
注意散漫、多動、神経質、
自傷、他害(他傷)など

養育／保育／教育に関する相談

生活リズム、集団行動、学習
困難、対人関係、家族と関係
機関との連携、地域生活など

医療に関する相談

発育、食事や排泄など
医療相談一般

相談申込み方法

予約制となっておりますので、あらかじめ電話でお申し込みください。

電話／FAX

京都教育大学
特別支援教育臨床実践センター
(075) 644-8354

電話受付日時

月曜日～金曜日
午前10時～午後3時
(ただし、祝祭日8/10～8/20、12/28～1/3は除く。)

面接日時の決定

お申し込み後、
改めて担当者から
連絡いたします。

相談料

当面の間、
無料です。

相談のながれ

相談受付

電話申込 本人／家族
※教育・福祉関係者のコンサルテーションもいたします。

担当者決定

受理会議で担当者を
決定し、その後相談を
申し込まれた方に連絡

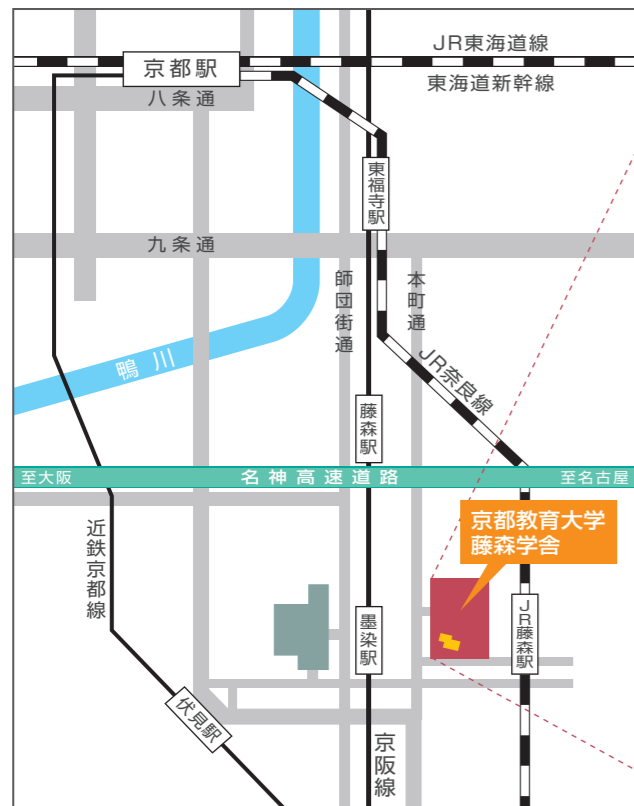
受理面接

問題の概要を理解するた
めの面接／行動観察／
心理テスト

継続面接

継続的な相談

周辺地図



構内地図



ACCESS

JR奈良線「JR藤森」駅下車徒歩3分、京阪本線「墨染」駅下車徒歩7分

【主要駅からJR藤森駅・京阪電鉄墨染駅までの所要時間】

- 京都から … 約10分
- 園部から … 約70分
- 彦根から … 約70分
- 奈良から … 約60分
- 亀岡から … 約50分
- 大津から … 約20分
- 大阪から … 約50分
- 三ノ宮から … 約60分

お問い合わせ先

京都教育大学
特別支援教育臨床実践センター
〒612-8522 京都市伏見区深草藤森町1
TEL/FAX 075-644-8354
E-mail : tokushi@kyokyo-u.ac.jp

特別支援教育臨床 実践センター



Center for
Research and Training
in Special Needs Education

特別支援教育の要として、全学生への教育、教科教育との融合、そして地域貢献を目指します。

■ 特別支援教育臨床実践センターの役割

全学的な授業「特別支援教育」の推進、
障害のある子どもを対象とした
「発達相談」の充実、そして学際的な
現職教員の研修を目指します。

特別支援教育臨床実践センター長 田中 道治

我が国の新しい教育システムである特別支援教育は、従来の特殊教育と違って、場にとらわれず児童・生徒一人ひとりの教育ニーズ並びに発達ニーズを踏まえた教育・指導を目指しています。したがって、特別支援学級および通級教室のみならず、通常学級においても教師は児童・生徒の発達像や障害像をしっかりと把握した上で教科指導及び生活指導を進めることが求められています。特に集団参加を困難にしているLD(学習障害)、ADHD(注意欠陥多動性障害)、高機能自閉症、あるいはアスペルガー症候群などの発達障害児については、自尊心や自己効力感の低下に注意を払いながら適確に彼らの内面世界を理解した教育が必要となります。「学びたい」「もっと知識やスキルを身につけたい」「友達と仲良くしたい」という障害児たちの心からの願いを受け止めた指導が多くの教師の課題です。

本センターは、主に発達障害学科との連携のもと、学内外の専門機関とつながりながら以下の業務を展開してきています。

- (1) 教員志望の全学生を対象とした「特別支援教育」の授業を発達障害学科教員と連携して進めます。発達障害学科には障害児教育学・心理学・生理病理学という専門分野があり、これらの学際性を取り入れた授業を展開します。
- (2) 地域貢献として、また学生教育としての「発達相談」を継続・充実させていきます。保護者や教師の発達観・障害観・指導観を受けとめつつ、障害のある児童・生徒の成長や発達に関する実態把握並びに指導プログラムの開発に努めます。そして、発達障害学科及び近接学科の教員による指導を踏まえた学部生・大学院生・特別支援教育特別専攻科生の臨床学習を充実させていきます。
- (3) 全学で取り組む特別支援教育として「教科教育と特別支援教育との融合」を目指したシンポジウムを継続します。教員志望の学生、教育学部教員、現職教員を対象として、通常学級における指導法を考察します。
- (4) 附属校園との連携を通して、通常学級でのアセスメント方法、指導法、教材開発、教育評価と検証をおこないます。
- (5) 京都府教育委員会・市委員会と連携しながら、現職教員の研修を行い、発達特性・障害特性の把握および集団(小集団)指導の方法、各教科における個別指導計画作成の助言・援助を行います。
- (6) 障害学生を支援するために、保健管理センターおよび教育臨床心理実践センター等の学内諸機関との連携を進めます。

これらの業務を遂行するためには、発達障害学科との密な連携のもと本センターは教育委員会、各校種の学校、医療機関、そして福祉機関などとの協力が求められます。何卒、皆様のご助言、ご協力を切にお願い申し上げます。

京都教育大学特別支援教育臨床実践センターでは、障がいのある子どもや発達の遅れが疑われる子どもの発達・教育相談の他に下記のような役割を担っています。



1 相談室

保護者・本人との相談を行う部屋です。ご姉弟が一緒にいらしても過ごせるような空間を確保しています。

5 研究室

専任教員の研究室です。学生の指導や学校現場の先生方の相談も行います。

2 プレイルーム

子ども達に必要なに応じて発達検査等を実施したり、自由に遊んだりする部屋です。30名程度までのセミナーにも利用できます。

3 プレイランド

伸び伸びと遊ぶことができる屋外のランドです。砂場、滑り台、ジャングルジムなどがあります。

4 観察室

プレイルームで活動する子ども達の様子を観察・記録する部屋です。また、カンファレンスやゼミ等にも活用することができます。



2010年3月に増改築が行われました。

特別支援教育臨床実践センター運営組織

- センター長 田中 道治 (障害児心理学)
- センター専任教員 相澤 雅文 (障害児教育学)
- センター兼任教員 丸山 啓史 (障害児教育学)
- 牛山 道雄 (障害児生理・病理)
- 藤岡 秀樹 (教育心理学)
- 水谷 宗行 (発達心理学)
- 相談補佐員 福井 めぐみ
- 松中 修子
- 金子 真理子

教員紹介



相澤 雅文

これまで、小学校や国公立の養護学校(特別支援学校)の小学部、中学部、高等部の教員、そして発達相談支援センターの相談員としての勤務を経験してきました。これまで取り組んできた臨床実践は

- 知的障がい・発達障がい(高機能自閉症、LD、ADHD等)のある個々の児童生徒の特性に応じた支援
- 教材教具の開発
- 不登校児への支援
- 保護者、教員へのコンサルテーションや本人自身とかわって個々のライフステージ(学齢期、青年期、成人期)のニーズに応じた支援のマネジメント
- 特別支援教育コーディネーターとして通常の学級に在籍する本人、保護者、教員、クラスメイト達への支援などです。現在最も力を注いでいる研究は、集団参加に難しさをかかえる児童生徒の理解と教育的支援のあり方に関する臨床教育研究です。

京都の伝統・文化の中で、各支援機関と連携しながら、多くの本人・保護者、教職員の方々との出会い、相談、支援に取り組んでいきたいと考えています。